

3 モデル地域における実践

- (1) 野田市・・・・・・・・・・・・・・・・ 8～13
 - ・防災に関する指導方法等の開発・普及等のための支援事業
 - ・学校防災アドバイザー活用事業
- (2) 八街市・・・・・・・・・・・・・・・・ 14～17
 - ・防災に関する指導方法等の開発・普及等のための支援事業
 - ・災害ボランティア活動の推進・支援事業
- (3) 印西市・・・・・・・・・・・・・・・・ 18～24
 - ・学校防災アドバイザー活用事業
- (4) 匝瑳市・・・・・・・・・・・・・・・・ 26～31
 - ・学校防災アドバイザー活用事業
- (5) 鴨川市・・・・・・・・・・・・・・・・ 32～38
 - ・学校防災アドバイザー活用事業
- (6) 千葉市・・・・・・・・・・・・・・・・ 40～45
 - ・学校防災アドバイザー活用事業

野田市 実践的防災教育総合支援事業

自らの命を守る防災教育

－危険を予測し、主体的に行動する態度の育成をとおして－

野田市教育委員会学校教育部指導課・04-7123-1329

指導主事 村田 弘信

1 実施事業

(1)「防災に関する指導方法等の開発・普及等のための支援事業の実施」

(2)「学校防災アドバイザー活用事業の実施」

2 事業概要

(1)緊急地震速報アダプターを導入し、その訓練用機能を利用し、ワンポイント避難訓練を実施する。複数回の実施と指導を繰り返すことで、児童が「落ちてこない」「倒れてこない」「移動してこない」場所に身を寄せることができるような能力を高めることを目指す。

(2)防災教育の専門家を招聘し、児童が危険を予測し、主体的に行動できる能力を高める防災教育のあり方や地域と連携した防災教育のあり方を探る。

(防災アドバイザー：北海道教育大学教授
佐々木貴子 氏)

3 実施概要

実施時期	計画事項	参加者
5月25日	○第一回実践委員会 ・今後の活動予定について	実践委員
6月30日	○第二回実践委員会 ・避難訓練実施方法、地域との合同防災訓練実施方法等について	実践委員 自治会関係者

11月4日	○学校・地域合同防災訓練 ○防災講演会	自治会関係者、保護者、実践委員、防災アドバイザー、教職員
12月28日	○緊急地震速報アダプター設置完了 (市内7小学校、3中学校)	
1月中旬	○緊急地震速報アダプターの訓練機能を活用した避難訓練 (市内7小学校、3中学校)	
1月25日	○公開授業研究会 ○防災講演会 ○第三回実践委員会 ・成果と課題について	自治会関係者、保護者、実践委員、防災アドバイザー、教職員

4 実践委員会

	氏名	所属及び役職
1	高橋 宏	山崎小学校校長
2	山崎 保	山崎小学校教頭
3	福田 吉寿	山崎小学校安全主任
4	松本 和博	野田市役所市民生活課係長
5	村田 弘信	野田市教育委員会指導主事

5 具体的な取組

平成24年度「命の大切さを考える防災教育推進事業」として千葉県教育委員会より実践校として指定を受けた野田市立山崎小学校を中心に取り組んだ。

(1)緊急地震速報を想定した避難訓練・ワンポイント避難訓練

① 避難訓練

ア ねらい

- ・適切な第一次避難の仕方を身につける。
- ・標準的避難経路と避難場所を知る。
- ・安全に避難しようとする実践的態度を養う。

イ 内容

- ・第一次避難、第二次避難を行う。
- ・避難に関する約束（お・か・し・も）を守る。



※第一次避難では、頭や首を確実に守る。

ウ 訓練等

4月	緊急地震速報対応訓練	授業中
6月	緊急地震速報対応訓練	昼休み
9月	緊急地震速報対応訓練	昼休み
10月	緊急地震速報対応訓練	清掃中
12月	緊急地震速報対応訓練 <予告なし>	昼休み

② ワンポイント避難訓練

ア ねらい

- ・様々な場面を想定して訓練し、時と場に応

じて自分の身を守る方法（第一次避難と経路の確認）を身につける。（自助）

- ・危険を感じ取り、周囲が安全に身を守れるよう行動する力を高める。（共助）

イ 内容

(7) 全校一斉のワンポイント避難訓練

a 計画的に行うもの

- ・第一次避難まで、もしくは、経路確認までを実施する。
- ・第一次避難の約束は、『真ん中に集まり、頭を守る』『物がくおちてこない・たおれてこない・いどうしてこない>場所を選ぶ』
- ・ふり返りカードを活用し、今後の活動の向上につなげる。
- ・予告ありから予告なしへ。

b 実際の緊急地震速報や地震発生の際に行うもの

(イ) 学級ごとのワンポイント避難訓練

- ・教室からの移動の際の場に応じた避難や、特別教室等で短い時間を使って実施する。
- ・事前にワンポイント避難訓練の合図をクラス等で決めておき、すばやく反応できるようにしておく。
- ・一次避難の確認、並び方、避難経路の確認をする。

ウ 訓練等

5月	素早く名簿順に並び移動	全校集会
7月	緊急地震速報対応訓練	昼休み
7月	地震発災対応（体育館）	全校集会
7月	学団ごとの避難方法	プール
10月	緊急地震速報対応訓練	昼休み
10月	緊急地震速報対応訓練	参観日
11月	地震発災対応	給食中
1月	緊急地震速報対応訓練	清掃中
2月	地震発災対応	体育館
2月	緊急地震速報対応訓練	清掃中
3月	避難訓練のまとめ	



落ちてこない
倒れてこない
移動してこ
ない
判断するた
めの掲示物



自分で○・×
を判断でき
るようにす
る。

※様々な場面を想定しての避難訓練



(全校集会・体育館)



(給食中)



(昼休み)



(プール)

③ 緊急地震速報受信アダプターの訓練機能
を活用した避難訓練 (設置 10 校)

ア 実施校・実施日・形態

(7) 野田市立南部中学校

平成 25 年 1 月 11 日 (金) 帰りの会
第一次避難行動と学級指導

(4) 野田市立第一中学校

平成 25 年 1 月 16 日 (水) 授業中
第二次避難まで

(5) 野田市立木間ヶ瀬中学校

平成 25 年 1 月 18 日 (金) 帰りの会
第一次避難行動と学級指導

(1) 七光台小学校

平成 25 年 1 月 17 日 (木) 授業中
第一次避難行動と学級指導

(6) 野田市立中央小学校

平成 25 年 1 月 18 日 (金) 朝学習
第一次避難行動と学級指導

(加) 野田市立岩木小学校

平成 25 年 1 月 18 日 (金) 授業中
第一次避難行動と学級指導

(キ) 野田市立北部小学校

平成 25 年 1 月 22 日 (火) 授業中
第一次避難行動と学級指導

(ク) 野田市立南部小学校

平成 25 年 1 月 23 日 (水) 授業中
第一次避難行動と学級指導

(ケ) 野田市立木間ヶ瀬小学校

平成 25 年 1 月 25 日 (金) 休み時間
第一次避難行動と学級指導

(コ) 野田市立山崎小学校

平成 25 年 1 月 25 日 (金) 清掃中
第一次避難行動と学級指導

イ 訓練結果

* 訓練実施総数 5375 人

訓練用の放送は 聞こえたか	よく聞こえた	4062人	75.6%
	やや聞きにくか った	1046人	19.5%
	聞こえなかった	267人	5.0%
素早く安全な場 所に身を寄せる ことができたか	できた	4644人	90.9%
	できなかった	465人	9.1%

普段から物が「落ちてこない・倒れてこない・移動してこない」場所を意識しているか。	意識している	3953人	73.5%
	意識していない	1422人	26.5%



ウ 学級指導用資料 (野田市立第一中学校)

第3回避難訓練・学級指導資料

安全担当

避難訓練の最初の15分間で、ご指導をお願いします。(14:15~14:30)

1 1年10カ月前の東日本大震災のときのことを思い出し、日本には数多くの大地震が起きていることやこれから必ず起こることを知る。

【今までに発生した主な地震】

●阪神淡路大震災 1995年1月17日 午前5時46分
死者 約6500名 負傷者 約43000名
住宅被害 全半壊合計 約25万棟(約46万世帯)

●東日本大震災 2011年3月11日 午後2時46分
死者・行方不明者は約19,000人 全壊・半壊は合わせて29万棟以上
各学級に「東日本大震災のニュースポスター」を配布しますので、使って話をしてください。

【これからも発生する可能性が高い】

過去の発生記録や現在解明されている範囲での両関東地域の地殻構造から、2007年(平成19年)~2016年(平成28年)の間にM7~7.2の(高濃度・プレート内)地震が70%の確率で発生するとの想定が行われている。【ウィキペディアより引用】

2 地震が発生したとき、どのように行動するか考えさせる。

身を守るためにどうしたらいいのか、生徒ともに考えさせてください。

- 近くのドアや窓を開ける。(一つがされてドアや窓が開かなくなってしまう可能性)できる限り、カーテンも開ける。
- 自分の身をしっかりと守る。①机の下に避難(特に机を守る)②安全な場所に避難する。
- 机がずり落ちる危険に行動する。(一学校等では、机ごと放送が聞こえない。それ以外の場所でも、パニックになってしまうと冷静に行動できなくなってしまうため)

緊急地震速報のチャイム→「緊急地震速報の訓練です」は訓練。「緊急地震速報です」は本音。震度5以上の地震で緊急地震速報が流れということを、学級でしっかりと周知しておく。
チャイム音が聞こえたときには、すぐに強い揺れがくることを想定して、物が「落ちてこない」「倒れてこない」「移動してこない」場所に身を寄せることが大切であることを指導。

3 今日の避難訓練について知る。

- 今日の避難訓練は「地震」を想定しています。緊急地震速報が流れます。まずは先生の指示に従います。揺れがおさまっても、またすぐに大きな余震が来る可能性が高いです。避難の最中にも大きな余震が来るかもしれません。校庭に先生の指示で、無音ですばやく避難する。
- 今日の避難訓練の目的の1つは、教室からの避難経路を再度確認することです。しかし、当日の地震でこわれた場所などによって、経路は変わることがあります。

エ 訓練の様子



オ 緊急地震速報アダプター



E E W100

(株)アレクソン

既存の緊急放送設備と接続
ラジオの受信局を選択



緊急地震速報を受信すると、パトライトが点灯し、放送がスタートする。

カ 考察

- 緊急地震速報音(訓練用)はおおむねよく聞き取ることができたが、スピーカーの位置や音量により聞きにくい場所があった。調整できる部分については調整していく必要がある。
- 児童生徒が教室にいる時に訓練を行った学校が多かったため、安全な場所への第1次避難行動は、おおむねよくできている。
- 物が「落ちてこない・倒れてこない・移動してこない」場所について、普段から意識できている児童生徒は73.5%であり、意識が低いことがうかがえる。意識できていると回答した中には、「学校では意識しているが家では意識していない」という児童生徒もいる。自

分の身は自分で守るということからも、この数値は高めていかなければいけないものであると考える。山崎小学校においては、この数値が 87.5%であり、全体より 14 ポイント高く、防災教育に取り組んできた成果が現れている。

(2) 学校・地域合同防災訓練、防災講演会

平成 24 年 11 月 4 日 (日)
8 時 20 分～14 時 20 分
於 野田市立山崎小学校

① ねらい

- ・地域と共に防災意識を高める。
- ・地域住民と児童との交流を深める。
- ・自助、共助、公助について考える。

② 参加人数

約 900 名 (講演会 約 150 名)

- ・児童 約 380 名、職員約 30 名
- ・関係者 約 80 名
- ・教育関係者 約 20 名
- ・地域住民、保護者 約 400 名

③ 内容

ア 学校・地域合同防災訓練

<見学(体験)>	<体験>
炊き出し・試食	煙体験
三角巾	手当体験
避難所、備蓄品説明	消火器体験
工作車	避難所体験
給水車体験	車いす体験
タンカづくり体験	AED 講習体験



イ 防災講演会

演題 「“いざ” は普段なり」

講師 北海道教育大学教授 佐々木貴子 氏

- ・防災に対する意識を高めることが最重要
→防災意識が低く、知識・訓練が不足している場合は正しい判断ができない。
- ・いざ大きな災害が起きた場合には、個人的な助けを「公」には求めづらい。頼りになるのは近所の方々である。だからこそ、地域の繋がりを大切にしなければならない。
- ・自助としてすべきこと
→ 家屋の耐震診断と補強・家の中の対策
 - ・家具等の転倒防止対策
 - ・高い所に物を置かない
 - ・観音開きの扉に鍵
 - ・強化ガラス、ガラス飛散防止フィルム
 - ・避難通路を考慮した配置 など
- ・共助としてすべきこと
→ 地域の防災(減災)力の向上
 - ・自主防災組織の見直し
 - ・行政との連携と協力
 - ・防犯、福祉、子育て、ゴミ問題等の生活環境問題への対応

(3) 「命の大切さを考える防災教育推進事業」

公開研究会、防災講演会

平成 25 年 1 月 25 日 (金)

13 時～14 時 30 分

於 野田市立山崎小学校

① ねらい

- ・教科、領域等の学習の中で防災意識を高める。
- ・自助、共助、公助について考える。

② 参加人数

約 550 名 (講演会 約 100 名)

- ・児童 約 380 名、職員約 30 名
- ・教育関係者 約 90 名
- ・地域住民、保護者 約 50 名

③ 内容

ア 公開授業

年 組	教科	単元名
1-2	学級活動	身の回りの整理整頓
2-2	学級活動	もしも地震などの災害が起きたら
3-1	国語	くらしと絵文字
4年	総合的な学習	地域防災マップを作ろう
5年	総合的な学習	避難所での食事名人になろう
6-1	理科	土地のつくりと変化
あおぞら	生活単元	地震が起きたときの行動



イ 防災講演会

演題 「“いざ”は普段なり」

講師 北海道教育大学教授 佐々木貴子 氏

- ・教職員の防災に対する意識を高めなければ児童生徒の防災への意識を高めることはできない。
 - ・普段の生活・教育が自分の命を守ることに繋がっていく。
- (釜石東中学校の生徒のメッセージより)
- 想定外に対応できる力を身につけるには、普段のことを真剣に行うこと。
- 大人を信じ、お年寄りを大切にしよう。
- 語り継ぐことの大切さ。
- ・防災教育とは教科等の中で防災の視点をも

ってつないでいくことであるという意識で取り組む必要がある。

- ・防災の視点を取り入れた学習を行っていく時には、イメージを持たせて考えさせることが重要となる。(内発的動機がなければ意識を高めることはできない。)

(4) 成果と今後の課題

- ・緊急地震速報に対応した避難訓練を行うことで日頃から放送を意識し、いざという時に備えようという意識が高まった。
- ・時間帯や場所など様々な状況を想定して避難訓練を行うことで、児童はその場に応じた判断で自分の命を守ろうとする力が身についた。
- ・訓練を重ねる中で、上級生が下級生を誘導して2次避難を行うなど、周りの人の命をも守ろうという心が育まれた。
- ・2回の防災講演会の実施により、防災に対する意識の大切さを広めることができた。
- ・教科・領域で防災の視点を取り入れた授業をすることにより、児童だけでなく職員自身も防災への意識が高まった。
- ・防災の視点をもって教科・領域の年間指導計画の見直しをすることにより、様々な活動において防災の視点に関わっていることがわかった。
- ・教科に防災の視点を取り入れて授業を行った場合、防災の割合が多くなってしまうと教科の目標とかけ離れたものとなってしまふ。教科の目標を逸脱することなく防災教育をどのように行えばよいかは課題である。
- ・実践校での取組をいかにして多くの学校に広め、教職員・児童生徒の防災意識の向上を図っていくかが課題である。

八街市 実践的防災教育総合推進事業

「自助・共助の意識の下に適確に行動できる人材を育成し、災害に強い学校とまちづくりに役立つ態度の育成を図る」

八街市教育委員会 学校教育課 043-443-1446

指導主事 鈴木 浩明

1 実践事業

- (1) 災害ボランティア活動の推進
- (2) 防災に関する指導方法の工夫

2 事業概要

まずは「自分の命は自分で守る」ことの重要性と、発生からどのように住民が助け合い、生活をしているのか、課題は何か現地を視察することや現地の方々の話を直接聞くこと、また、被災地復興に携わること、これらの経験により「自らのこと」として防災意識を高め、自助・共助の意識の下に的確に行動できる人材育成を目指す。

3 実施概要

実施時期	計画事項	参加者
5/26	○第1回実践委員会の開催 ・今後の活動予定について	市教委・社会福祉・実践委員
6/8	○第1回 被災地派遣ボランティア活動(応援米)	防災アドバイザー・市教委・教職員・PTA・生徒
6/23	○防災教育講演会の開催 ・防災アドバイザーを講師として招き、教育関係者及び一般市民に公開した防災教育講演会の実施	防災アドバイザー・市教委・実践委員・教職員・PTA

実施時期	計画事項	参加者
10/27 ～ 10/28	○第2回 被災地派遣ボランティア (花と歌声)	防災アドバイザー・市教委・教職員・PTA・生徒
11/27	○市内福祉・一般市民・教育関係者に向けて活動報告会の開催	市長・教育長防災アドバイザー・市教委・教職員・PTA・生徒
2月中	○市内各校への啓発	教職員・PTA・生徒

4 実践委員会

	氏名	所属及び役職
1	會澤純一郎	防災アドバイザー
2	森山秀覚	山武育苗センター代表
3	三橋貴司	県教育庁北総事務所指導主事
4	齋藤勝美	市社会福祉協議会長
5	綿貫敏宏	市社会福祉協議会事務局長
6	立川 昇	八街中学校学区連絡協議会会長
7	廣瀬正臣	八街中学校長
8	折目宇和	八街中学校教頭
9	桑原逸郎	八街中学校教務主任
10	大越秀行	八街中学校研究主任
11	江原眞二	八街中学校安全主任
12	武田文明	八街中学校 PTA 会長
13	畑山雅子	八街中学校 PTA 副会長
14	安川裕樹	八街市教育委員会学校教育課長
15	鈴木浩明	八街市教育委員会学校教育課 指導主事

5 具体的な取組

(1) 第1回実践委員会

平成24年5月26日(土)

15:00～ 於 八街中学校

① 協議等

ア 事業説明及び役員を選出

イ 協議「今後の活動予定について」

- ・訪問災害地の決定
- ・ボランティア活動日及び行程
- ・活動内容について(応援米)
- ・参加人員について

(2) 第1回被災地派遣ボランティア活動

平成24年6月8日(金)～9日(土)

災害地：宮城県石巻市周辺

参加者数：生徒31名、引率者16名

視察場所①：石巻市立大川小学校

視察場所②：石巻市長面地区

訪問仮設①：石巻市伊保石一次(60戸)

訪問仮設②：石巻市伊保石二次(48戸)

訪問仮設③：石巻市今宮町体育館
(23戸)



① 行程

6/8 21:00 八街中学校 発

6/9 6:45 石巻市立大川小学校視察
石巻市長面地区の水没状況の視察



10:00 訪問仮設

全体式

3グループに分かれ応援米を
各戸に配付しながら訪問。

11:45 全体式

12:00 昼食

13:00 学校へ向け出発

21:00 帰校・解散

② 事後活動

ア 作文方式による活動報告書の作成 (作成項目)

(ア)なぜこのボランティアに参加しようと思ったのか。

(イ)被災地を視察してどのような感想を持ったか。

(ウ)活動を体験して感じたことは何か。

(エ)これからできること、しなければなら
ないことはなにか。

イ 校内及び市内への報告講演会の開催

(ア)スライドショー画像の作成から発表

(イ)代表者による感想の発表

(ウ)画像を含んだ掲示物の作成

(エ)発表を聞いての在校生の感想と感想文
の教室掲示

ウ 報道機関への報告

(ア)新聞社・情報配信社からのインタビュー
へ回答する方式での対応

(3) 防災教育講演会の開催

平成24年6月23日(土) 第5校時

於 八街中体育館

出席者 実践委員、教育委員、社会福祉協
議会、地域自治会長、民生委員、養護施設
長、ケーブルテレビ296、千葉日報社、幹
部交番、等

ア 講演(司会進行はPTA本部)

演題 「3.11から1年 被災地から伝え
たいこと」～今、私達にできること～

講師 防災アドバイザー

會澤純一郎 先生

イ 参加生徒による活動報告

(ア) スライドショー画像による活動発表

(イ) 代表生徒による感想の読み上げ発表

ウ 100万本植樹活動の報告

(ア) 山武育苗センター森山先生の講演

(イ) スライドショー画像による活動発表

(ウ) 代表生徒による感想の読み上げ発表



エ 公演後に記念植樹

(ア) 防災に対する決意を風化させないために記念の植樹を行った。(紅白のハナミズキの木2本を植樹し、第2回時に片方を被災地へ持参)



(4) 第2回被災地派遣ボランティア活動

平成24年10月27日(金)～28日(土)

活動災害地：宮城県石巻市周辺

参加者数：生徒49名、引率者18名

視察場所①：南三陸町合同防災庁舎

視察場所②：石巻市立大川小学校

訪問仮設①：東松島市大塩矢本グリーンタウン仮設住宅700世帯(ひまわり集会所)



ア 行程

10/27 21:00 八街中学校 発

10/28 6:45 南三陸町合同防災庁舎
視察(献花・焼香)

9:00 石巻市立大川小学校
視察(献花・焼香)

10:00 仮設住宅にて活動
花と歌声のボランティア活動

(ア) 学校で育てた「サクラ草」のポット花苗の配布(200鉢)



(イ) 絆の合唱の発表(作曲家から本活動のために創作していただいたオリジナル曲「虹」の参加者全員による合唱)



(4) 記念植樹(持参したハナミズキ1本)



11:45 全体式
12:00 昼食
13:00 学校へ向け出発
21:00 帰校・解散

(5) 一般市民・教育・福祉関係者に向けて
活動報告会の開催

平成24年11月27日(火) 午後1時～
於 八街市中央公民館
出席者、市長をはじめ市内各官庁、教育、
福祉、安全協会等の諸機関及び一般市民約
500名

ア スライドショー画像の作成から発表
イ 防災アドバイザーとのシンポジウム
テーマ

「被災地の現状と私たちができること」

ファシリテーター

市社会福祉協議会事務局長 綿貫敏宏
コーディネーター

防災アドバイザー 會澤純一郎 先生
発表者

千葉黎明高等学校 生徒 1名

八街中学校 生徒 2名

八街中学校PTA 会長

災害ボランティア 1名



(6) 成果と今後の課題

【成果】

何をおいても「百聞は一見に如かず」である。その大地にたってみて、空気を感じ、直接触れ、話を聞いて感じることをおいて他にはない。

帰校後の報告の中で、参加生徒たちから発するメッセージは全てにおいて絶大な説得力を持つ。あえて言葉にしないことすらその意味を感じとることができる。

報告書には生徒にとって「人生を変える出来事」とも表現されている。十代の子どもが真面目に人生を感じているのである。この思いがいざという時の行動に必ず活かされるものと確信する。

【今後の課題】

今後、継続した取組としていくためには2点の課題がある。1点目は予算措置に係る対応である。保護者や地域関係機関の賛同は得られると考えられるが、関係諸経費の計上については具体的な取組が求められる。

もう一つの課題は「教育課程にどのように位置づけるか」である。本年度は課外での活動として取り組んだが、参加生徒、職員、受け入れ側スタッフ等の負担を考慮し、継続的な実践とするためには、きちんとした位置づけと教育課程上の編成を工夫しなければならない。

今後も被災された現地の学校等との交流等を工夫し、一層の防災意識の高揚と実践的な取組を充実させたい。

